



Suigara-yama_OoazaHyo(Kyoko_

2020-01-31

日常と非日常を雨が浸すー世田谷ボロ市

少し期間を空けてしまった。この間のことを、順を追って。

一月十五日の水曜日に世田谷ボロ市に出かけてきた。年が明けてちょっとしたお出かけ。ボロ市開催の五日ほど前に、その近く(世田)を、ある編集会議に出席するため通ったことがあった。交通規制のポスターなどがあちこちにあるが、あたりはもちろん、平日の開催されている非日常とそうでない日常。すこしの違和が心地よい。

毎年十二月十五日・十六日と一月十五日・十六日に開催される古ボロ市は、一五七八年(天正六年)の楽市が起源の由緒ある催しで、(敷地内にボロ市の資料もある区立郷土資料館がある)を中心として、例年七〇〇店以上の出店、一日二〇万以上の人出がある。売っているだ、骨董、植木、食品、衣類、貴金属、古本.....。

わたしはボロ市のことをいつ知ったのだろうか。子どもの頃、世田から、あるいはそのときからなんとなく存在を知っていたようなに出かけるようになったのは、ここ十年ぐらいで、また世田谷に戻って住むようになってからだ。

「市」ということばに惹かれる。勝手な想像だが、十五日というのい時に開かれていたということなのかしらとってしまう。実際の毎月一と六のつく日に開かれる六斎市だったらしいが。その後、十かされる歳の市として長く続き、明治になり、新暦が使われるように月十五日も開かれるようになり、さらに十六日にも、という段階をうに年四日間開かれるようになったとか。

十二月はバイトが繁忙期で少し疲れていたもので今年は一月に出かけ曜日などに結構当たっていて、混んでいたが、今回は平日だったのいるかしらと。天気は朝のうちは雨だった。

編集会議で通ったときは自転車だったが、ボロ市の時はいつもバ混雑がすすぎで自転車を停める場所がないのだ。

まだかすかに雨が降っていた。会場に向かうバスの中らかつてたマンションをまた見る。もう.....何十年も前になるというのに、が同じ名前と同じ建物としてそこにあることにいつも驚いてしま階に入っていた文房具店も健在だ。小学生のわたしがその文房具店かを買った記憶もある。

もっとも、そのマンションの名前は、長らく忘れていたのだった。越してきて、祖母のところに行くのと同じルートのバスに乗る機会時に思い出したのだ。最寄りのバス停の名前、となりのバス停の名感じて、あたりを見回したとき、文房具店とその上のマンションが名前が目飛び込んできた。それで埋もれていた記憶の中から、名るようにしてあらわれ、明るくわたしを照らしたのだった。

マンションの名前が浮かび上がり、合致したときのきらきらとしてもどこか宝物めいて、やさしい。

よくは覚えていないのだが、子どもの頃、わたしたち家族が世田頃、祖母は東中野に住んでいた。わたしが世田谷を離れてのち、

Navigation

[Previous 月](#)

[Next 月](#)

[Today](#)

[Archives](#)

[Admin Area](#)

Categories

[All](#)

[General](#)

灰皿町の本

●[幻想小説『なめくじキーホルダー』清水鱗造](#)

●[「週刊読書人」詩時評 一九九二-一九九三年 清水鱗造批評集 第一分冊](#)

Search

とそこに住むようになったのだと思う。

話は脱線ばかりするが、祖母が住んでいたマンションの近くに、ゴルフ、バッティングセンターなどの総合施設があった。今もある設、スーパーと飲食店が目立っている。子どもの頃、ボウリングをいが、その隅で子ども用の乗り物などに乗って遊んだ記憶がある。

そこにまた別のある時に行った。スーパーで買い物をしただけだいつも浮かび上がってくる歌がある。「年たけてまた越ゆべしと思へ小夜の中山」(西行法師)。

建物自体はもしかして、当時と同じなのかもしれない。外壁などかったから。その壁が目にしみた。そのスーパーで晩ご飯の食材を過去の日常がこうして重なることがあるのだ。



Login

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

Powered by



そうだった、ボロ市だった。会場に向かうバスのことを書いていと迂回してしまったようだ。

雨が降っているのかどうかバスの中からはわからない。ボロ市最着き、降りたらかすかに雨。

だが、気にならない程度だった。フード付きの上着で来たので、雨をしのぐ。ボロ市はとつぜんに始まっていた。土日ほどは混雑し影響もあったかもしれない。お店はシートをかぶせていたところもほぼ止んだ風だったので、おそろおそろといった感じでそれを取りせかくのお祭りだもの、晴れたほうがいい。雨が上がった。

混雑していない、といったが、それでもさすがにボロ市だ、平日りよくなかったのに、かなりの人混み。お店としてはどうなのかわて歩く側としては、ちょうどいい混み具合。ゆっくりとお店を見る

どの混雑。あまりに混雑が激しいと、動く満員電車、もはや人の波けになってしまう。それほど混むと実は店側も客が寄りつくことで、かえってよろしくないらしい。

いつだったかのボロ市で買った瑪瑙のネックレスをつけて出かけ食品たちを少し買っただけだったが、歩いて回るのがとにかく楽し

今、うちで使っているバスタオルにラブホテルのロゴがはいってる。これは、以前にボロ市で安く買った物。日常と非日常と、いつに対比を思い浮かべてしまう。「市」というのはもはや祭りという非れが日常ととても親しい。

飲食できる屋台のようなものももっとあったような気がするが、うな気がした。いや、混んでいるときはどのみちそうしたものたちを得なかったから、記憶違いかもしれない。今年は平日なので、混とは思ったが、それでも食べ歩きするには気が引けるぐらいは混ん腹が空いたというよりも、一杯ひっかけたかった。ボロ市会場のかこで、店先で屋台を出している小料理屋？なのだろうか、小さなた。屋台で蒸し牡蠣を出していて、店内で生ビールや生牡蠣も提供う。ああ牡蠣の季節だなあと、連れ合いと入ってみた。ほぼカウい小さなお店だが、比較的新しいのだろう、木の温もりも感じられた。中にボロ市限定のメニューがあり、お酒などはメニューに載っ出してもらえるらしい。わたしはレモンソーを、連れ合いは生ビた。つまみは生牡蠣、そしてホタルイカを焼いた物。

生牡蠣は久しぶりに食べた。かなりの好物なので、単純にうれしいお店だった。多分、これからはボロ市に来たら、そのたびに寄うだ。

お店を出て、Uターンする感じでまたボロ市の出店たちを眺めるら、帰り道をとっているのだ。基本、道の左側に並ぶお店を眺め、購入する感じ。

そんな中、進行方向の左側にあたる郷土資料館まで戻ってきた。設を見るのも好きなのだ。世田谷の縄文時代の遺跡からの出土品なる。企画展のほう、この時期はいつもボロ市にまつわることをやっ今回はたまたま展示解説をしていたのだろうか。人ばかりで、なんりづらかったので、遠慮してしまった。

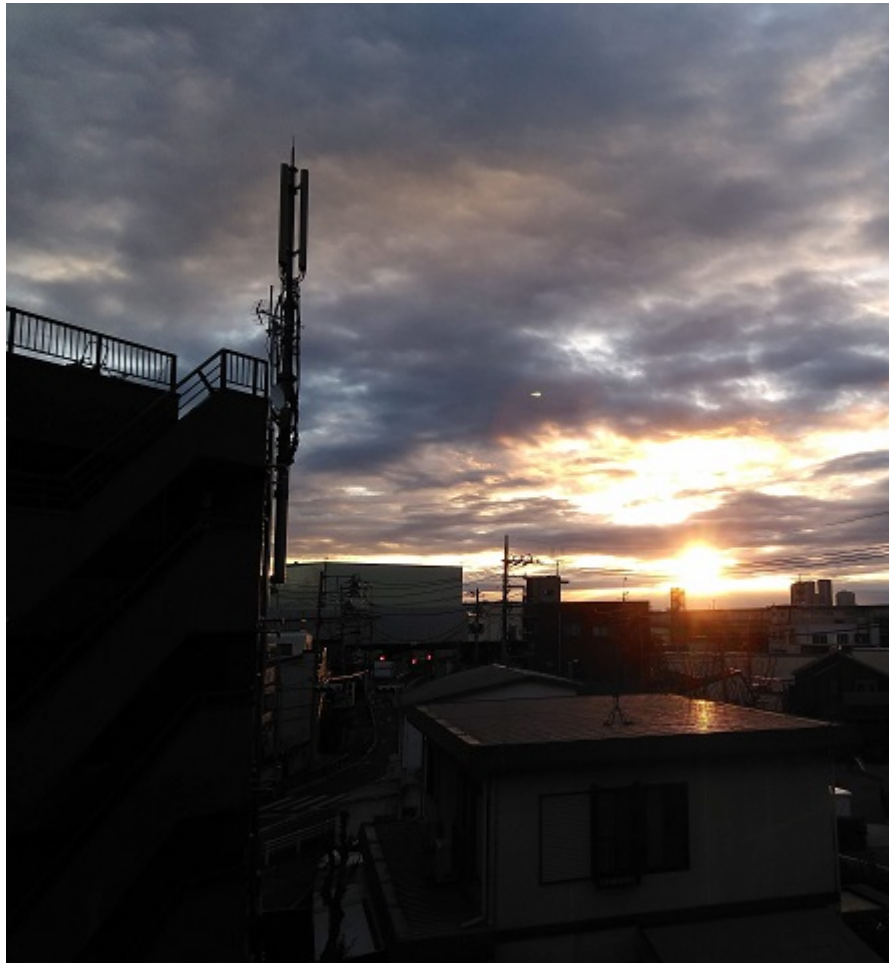
帰る頃に、また少し雨。

バスに乗る頃はもう夕方、帰りのバスで、また祖母の住んでいた。家の近くのバス停に着いたら、すっかり夜だ。不思議な平日。りと降り出した。

17:44:20 - umikyon - No comments

2020-01-01

謹賀新年 2020年元旦



2020年1月1日。今年もよろしくお願いたします。

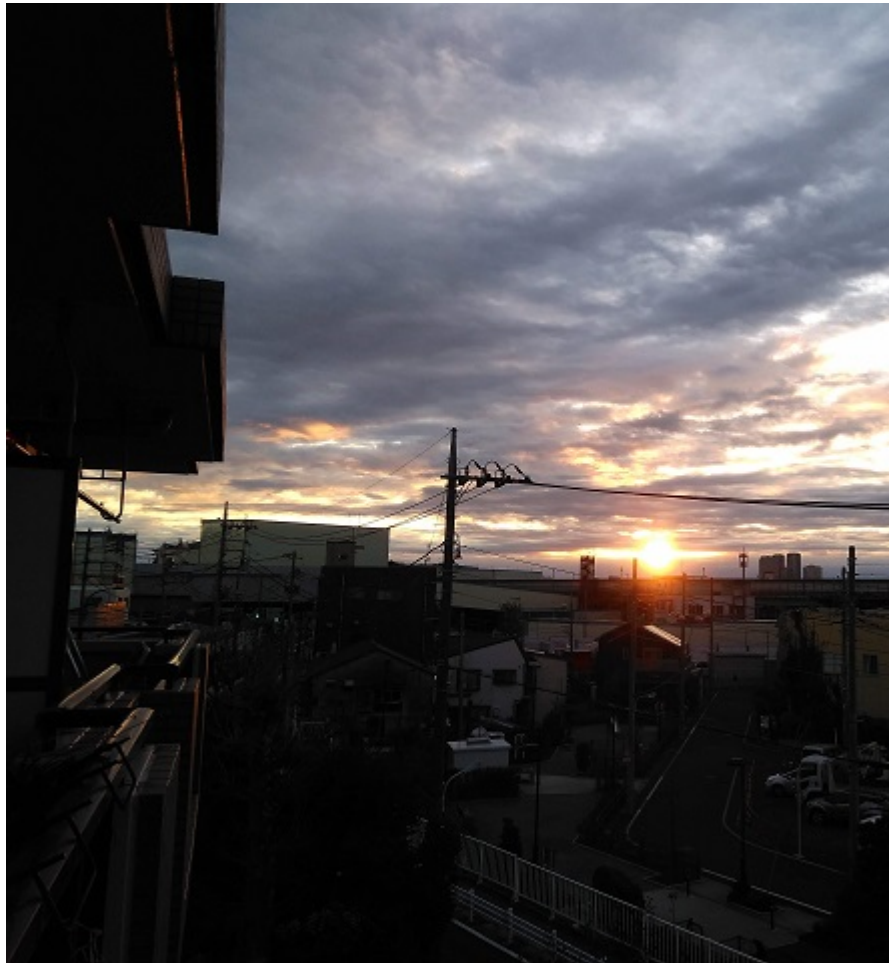
年が明けた。大晦日まで早朝バイトだったので、まだいまいち実でも、昨日はバイトが終わったあと、午前中に、正月のための食た。そのあと、大掃除...は、もうできなかつたけれど、時間のかぎいつもあまりしないところなどを、それこそ大急ぎで。拭きおわつ正月飾りをした。

掃除のめどがついて、この日何回目かの洗濯をしながら、お雑カブの甘酢づけを作る。ぶり照りは、焼かなかつたが、つけ汁をついた。

そして、午後八時ぐらいになつたらうか。年越し蕎麦を茹でて。こんなふうで大晦日に正月の準備をしても、まだ実感がわかないがうした日常的なことで、少しずつ、年の瀬と年明けを感じてゆく。

風邪をひいていたこともあり、疲れてしまつて、午後十時には就除夜の鐘は、今年鳴るかしら。クレーンがあつたとかで、元旦の撞いていい行事は中止になつた。今は大晦日の除夜の鐘も、同じ理なくされることがあるという。わたしは特別な、風物詩だと思つたが、思う人もいるのだから。家は比較的、お寺の近所だが、聞こえるぐらいの音でしかない。

わたしの部屋からは、除夜の鐘が聞こえる。鳴ればきっと、目を思ったが、年越しの時間はぐっすり寝てしまつていて、起きたのい。それも除夜の鐘の音で起きたのではなかつた。咳で目を覚まし夜の鐘は終わってしまったかしらと、耳を澄ましていたら、何回かぶ遅れてしまつたけれど、聞くことができ、そして中止にならな



今年の初日の出は、関東では拝めそうだと大晦日の天気予報で楽しみに、元旦の朝、目覚ましをセットして起きた。毎年、ベランを拝むのが恒例となっている。

だが、初日の出の時刻は東京は大体六時五〇分、その二〇分ほど様子を見たが、びっくりするほど雲が多い。ここ何年かでいちばだ。これでは初日の出は難しいだろうと、ほとんどあきらめる。東し切れているところがあった。あそこまで太陽が昇ればあるいは...分ぐらいだろうか。その時間になるぐらいまでの間に、とりあえず部屋の中に入った。何回か様子を見に行く。やはり七時一〇分ぐらい切れ間から初日の出を拝むことが。

最初思っていたのとはだいぶ違った。もっと青空のなかでと思っぎにもはや初日の出は望めないのではとあきらめ、結果、その中間の出を見ることができたということになる。思っていたのと、予想う。それは今回に限って言えば、意外といいことだった。こんなふまり、過ぎてゆくのだろうか。



みなさんにとって、今年もよい年でありますように。

08:46:53 - umikyon - No comments